

1 概要

8月6日の夕方から夜にかけて小川村に非常に激しい降雨（最大69mm/時間）この大雨による斜面崩壊などにより水源からの取水ができなくなるとともに水道管が複数ヶ所破損し大規模断水が発生小川村は長野県水道協議会※1の「災害等相互応援要綱」に基づき応援要請長野県水道協議会の要請に基づき、企業局を含む近隣事業者による「広域連携」により応急給水、応急復旧活動を実施

※1 長野県内の全水道事業者で構成される水道の普及、発達、相互の連絡調整を図る団体
会長：長野市長、事務局：環境部水大気環境課内

2 被害状況

断水 約250戸 500人(最大時)
水源取水不能 2か所
送配水管破損 5か所
機械施設破損 1か所



3 経過

- 小川村は水道担当職員1名と水道担当経験者を中心に応急対応するも被害甚大のため県水道協議会（長野市）に応援要請（第1次）
- 長野市から給水車を所有する周辺事業者に応援要請（第2次）
⇒企業局を中心とする応援隊により、給水車による応急給水、漏水調査、応急復旧活動

4 応援体制

- 応援事業者（6事業者）
長野市（応急給水、漏水調査）
中野市、須坂市、飯山市、信濃町（応急給水）
企業局（現地指揮、応急給水、漏水調査、応急復旧、復旧計画提案）
- 応援規模
延べ応援人数 55人（うち企業局 17人）
延べ出動給水車数 17台（うち企業局 3台）



日	経過
8月6日	大雨により大規模断水発生。小川村から長野市へ応援要請
8月7日	長野市先遣隊による状況把握
	現地応援隊本部設置（14:00） 長野市、中野市、須坂市、企業局による応急給水活動と情報収集
8月8日	長野市、飯山市、信濃町、須坂市による応急給水活動
	被害状況、漏水調査および応急復旧
8月9日	長野市、中野市、企業局による応急給水活動
	長野市、企業局による漏水調査及び復旧支援
	配水管破断箇所を特定し、仮設配管による応急復旧実施
8月10日	配水管破断箇所を特定し、小川村へ応急措置に係る助言を行う
	小川村により、応急措置が行われる
	現地応援隊本部解散
8月11日	小川村による応急復旧により、断水状態が解消される

災害応援活動の状況



給水車による応急給水活動



小川村と応援隊による被災箇所調査



応援本部（復旧方法等技術支援）

5 成果と課題（水道事業体間の連携及び技術力と人材確保の重要性）

(1) 成果

- 県水協が主導する広域連携による災害応援が効果的に機能
- 中核となる水道事業体を中心としてプッシュ型の災害応援が機能
- 企業局主催の実務研修会等を通じた近隣水道事業体間における顔の見える関係構築により円滑な支援活動を展開

(2) 課題

- 小規模事業体にとって危機管理は人的、技術的に困難が伴い、今後の人口減少等を踏まえると厳しい状況が予想される
- 長野県は全国的にも水道事業体が多くかつ小規模事業体が多い
（上水道数61事業（全国2位） 簡易水道数124（全国9位））
- 急峻な地形等の要因により、小規模施設が点在するとともに法面に布設された脆弱な管路が存在
- 水道施設台帳等の施設、管路の状況が把握できる資料の整理が不十分



小規模事業体の危機管理には技術力と人材を有する地域の中核となる事業体の存在とその事業体を中心とした事業体間の連携による支援体制整備が効果的

※参考 事業体の規模（給水人口ベース）
長野市 267,895人（長野県内最大）
上田長野水道事業広域化研究会（上田市、長野市、千曲市、企業局合計）591,623人（静岡市と同規模）